

事務事業評価シート

評価実施年度：平成30年度

上位の施策名称 施策Ⅱ-1-7
災害に強い県土づくり

1. 事務事業の目的・概要

事務事業担当課長

斐伊川神戸川対策課長 横川 裕

電話番号

0852-22-5937

事務事業の名称	大橋川改修事業促進事業	
目的	(1) 対象	大橋川改修事業により、移転等が必要な住民の方々、商売など影響を受ける方々
	(2) 意図	斐伊川神戸川治水事業推進のため、市民の理解が得られるようにするとともに、大橋川改修が、まちづくりや環境と調和した計画となるように、地元住民の意見を十分聴き、事業への理解と協力が得られるように努める。
事業概要	大橋川改修事業の促進のため、移転等が必要な住民の方々、商売など影響を受ける方々に対して、事業への理解と協力が得られるよう国、松江市と調整を図り、情報発信、説明会、個別相談等を実施する	

2. 成果参考指標

成果参考指標名等		年度	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度	単位
1	指標名	目標値	2,188.0	2,188.0	2,188.0	2,188.0	2,188.0	人
	取組目標値							
	式・定義	実績値	1,956.0	1,935.0	1,910.0			
		達成率	89.4	88.5	87.3	-	-	%
2	指標名	目標値						
	取組目標値							
	式・定義	実績値						
		達成率	-	-	-	-	-	%

3. 事業費

	前年度実績	今年度計画
事業費(b)(千円)	81,046	85,983
うち一般財源(千円)	81,046	85,983

4. 改善策の実施状況

前年度の課題を踏まえた改善策の実施状況	②改善策を実施した(実施予定、一部実施含む)
---------------------	------------------------

5. 評価時点での現状(客観的事実・データなどに基づいた現状)

平成27年1月に天神川水門、平成28年6月に向島川樋門、平成30年3月に向島地区築堤護岸が完成するなど、改修事業は着実に進捗しているが、新規着手の工区がなかったことなどから、実績値(説明会等の参加者数、コミセン来館者数)は、わずかながら減少した。ただし、コミセン来館者数については、個人での利活用が増えたことにより増加した。

6. 成果があったこと(改善されたこと)

○下流狭窄部(朝酌・矢田地区)
・移転対象16件のうち、12件が契約済み、うち8件の移転が完了した。
→平成29年度は、周辺地域整備事業(道路改良7か所)、生活再建支援事業(下水道3か所)を松江市に補助した。

○上流狭窄部(白濁地区)
平成27年度から用地調査を実施、平成28年度からは用地交渉に着手し、移転対象66件のうち、15件が契約済み、うち4件の移転が完了した。

○県艇庫の運用開始(上追子地区)
高校ボート練習の安全対策として、関係機関との調整を図り、練習時のルールを策定し、新艇庫の運用を開始した。

7. まだ残っている課題(現状の何をどのように変更する必要があるのか)

①困っている「状況」

・大橋川改修事業への理解と協力が得られない方がおられるため、今後の事業進捗への影響が懸念される。

②困っている状況が発生している「原因」

・移転が必要な住民の方の、事業への理解が得られていないため。
・中心市街地である白濁地区内において、生活再建に必要な代替地の確保ができていないため。

③原因を解消するための「課題」

・大橋川改修事業について、国、県、市が連携し、事業の必要性、河川環境や景観に十分配慮した改修事業を進めていくことを、住民の皆さんや商売などに影響を受ける皆さんに丁寧にわかりやすく説明を行い、理解していただく必要がある。
・白濁地区内に存在する空家や残地等を利活用するなど、官民一体となって取組む必要がある。

8. 今後の方向性(課題にどのような方向性で取り組むのかの考え方)

・大橋川通信の発行や大橋川コミュニティセンターの来場者の方々へ丁寧な説明を行うことで、大橋川改修事業の必要性や重要性について、理解を深めていただくよう取り組む。

・大橋川沿川の住民の皆さん、商売などに影響を受ける方々の意見を十分に聞きながら、課題の解決や事業への理解を深めていただくよう、国、県、市で緊密に連絡調整を図りながら取り組む。

・白濁地区においては、中心市街地という特殊性に鑑み、移転対象者の地区内での代替地確保等に対し、松江市と連携して取り組む。